

●市長新春特別インタビュー

市民目線に立ったわかりやすい広報紙を

従来から行政情報の発信に積極的に取り組んでいる山武市ですが、その中核をなすのが、広報『さんむ』です。市の考えるこれからの広報紙のあり方、目指すべき方向性について、椎名千収市長にお話をうかがいました。

当日は、空は青く、日差しが強いものの風の冷たい日でした。ブルーの作業服を身にまとった市長との、短い時間ながら実のある会談となりました（平成25年11月20日インタビュー／聞き手・市民編集準備委員）。

——市が発行する広報紙の役割はどこにあるとお考えでしょうか。

広報紙は、市民の皆さまと市を結ぶ最大のコミュニケーション手段です。行政情報を正確に、迅速に、わかりやすく伝えることが大きな使命となっています。インターネット等の発達で情報の伝達手段は多様化していますが、紙媒体である広報紙は、誰でもいつでも手に取って見ることができなのが利点です。

そして、広報紙を読まれた市民の皆さまが記事や情報に触発され、さまざまな催しや行事に参加したり、あるいは自分の住んでいる市に愛着を覚えたり、ということに結びつけばよいと考えています。その意味で定期的に発行する広報紙の役割は大変重要であり、

市民からの要望や期待も高くなるのは当然です。

——市長は広報紙に求めるものとして「市民目線の広報」を挙げていますが……。

ええ、広報に限らず行政そのものが市民目線に立っていることが必要です。その上で行政が発信する情報や内容が市民の皆さんに伝わりにくい、わかりにくいでは困ります。

市民の皆さんに内容や行政が発信する情報を親しみやすく伝えてほしいと思っています。

例えば、行政でよく使う言葉に決算とか予算があります。予算や決算はまだしも、急に公債費比率などという言葉が出てきたら、市民の皆さんは戸惑われてしまうか

もしれませんよね。

行政の側では当たり前と思っ使用っている言葉が市民の皆さんには通じないことが多々あります。

知らず知らずのうちにそういうことが積み重なって、市民目線から離れた広報になっているのではと気づかされました。

そのような「行政用語」は一般的な日本語とはいえないですね。ですから市民目線の広報という

きは、まず行政用語を、一般の市民の方々が日常生活の中で使っている普通の日本語に翻訳して伝えることが必要と考えています。



市民編集準備委員のインタビューに答える椎名市長

「市民編集準備委員会に期待しています」

——市民編集準備委員会が発足し、広報紙づくりに参画することになりました。

ええ、「市民目線」の広報紙づくりということで、市民の声をできるだけ反映できないかと、私が強く希望し、提案しました。

先ほど行政の言葉を市民の言葉に翻訳することが大切だといいましたが、その「翻訳者」は行政に携わる者ではなく、市民の皆さんのほうが適任なはずです。

ただ一方で、行政が出す広報紙を市民の皆さんにお願いしてよいのかという声が出てくるかもしれません。広報紙だけでなくまちづくりも含めて、市民の皆さんと行政が一緒につくりあげていくとい



う意味でとらえていただければ問題はないと思います。

——どのような広報紙にしたい、という具体的なイメージは？

市民が広報紙づくりに直接関わる例は他の市町村では、それほど多くはないかもしれません。こうあるべきという明確なイメージはないので、皆さんが自由につくりあげていただけたらと思います。予算には限りがありますのでその範囲であること、あとは市民の皆さんの良識にお任せします。

——広い意味で市民参加によるまちづくりの一環なんですね。

市民参加のまちづくりには、まず情報の共有化が必要で、そのための広報紙でなければなりません。広報紙を通して、行政と市民が一体となったコミュニケーションをつくりあげていけるものと期待します。私たちがどんなまちづくりを目指しているのか、市民一人ひとりにわかりやすい言葉で届くことが大切です。

《市民編集準備委員会が始動します》

市民目線から広報紙をつくれなにかという椎名市長の提案に、市では平成 24 年から市民編集準備委員を募集してきました。現在推薦人を含めて 10 人の委員が集まり、何回ともなく会合を重ねています。

そして具体的な活動の第一歩となるのが、今回の市長特別インタビューです。これからは、市内各所に出かけ、取材・編集活動を通して、市と市民をつなぐ架け橋になれたらと考えています。



●椎名市長と編集準備委員のメンバー。前列左から、石橋宏、椎名市長、小島妃佐子、後列左から、大野宮男、川込八千代、秋山滋、南照子、工藤進、郡司諭（当日欠席：岩澤静、櫻田晴美）

これからは、市民の皆さんと協働で、誰もが幸せを実感できる山武市、いわゆる他に依存しない「独立都市」ができていけたらうれしいですね。その手始めとして、編集準備委員会の皆さんには大変でしょうけど、期待しております。皆さんにお願いしたいのは、よ

り市民の声を反映した、こんな広報紙をつくらうというビジョンから取り組んでもらいたいですね。どんな広報紙ができるのか、今から楽しみにしています。

——本日はお忙しいところ、ありがとうございました。